



発行・荒川区体育協会 (荒川区荒川 2-2-3 荒川区教育委員会社会体育課内)

発行責任者・高田忠則

## 「二宮清純氏講演会」が開催されました

2006年12月6日(水)  
サンパール荒川にて

体育協会副理事長 足立 清二

当日は、一般参加者120名を含む290名、小ホールは満員の盛況です。

体育協会高田理事長と西川区長よりご挨拶をいただき、早速二宮清純氏の講演が始まりました。スタートは、Jリーグ創設の裏話、川淵チェアマンの大英断なくしては、今のJリーグの盛況はなく、川淵チェアマンを過去30年の日本の最高の指導者と絶賛されました。

### 講演内容

- ①リーダーシップには3つの資質「P、M、A」が必要である。PはPassion情熱、MはMission使命感理念、AはAction行動力。
- ②過去3回のサッカーワールドカップは日本の得点力不足が露呈した。フランス、日韓、ドイツ大会でのフォワードの得点は1点のみ。シュート決定率は、ワールドカップ平均8.8%に対し日本は1.82%、ゴールの枠内に入っているシュートの確率(オンターゲット率)ワールドカップ平均39%、日本は20%。数字で見る限り日本は、32位/ワールドカップ出場国は32チーム、です。
- ③アメリカのメジャーリーグは国技であり、アメリカ国内政情不安の時は、ホームランが量産され国民の不安を消し国威発揚をはかる役目をしている。松坂と松井の対決を実現することにより観客動員の増大、日本のメディアなどの興業収入の増加をはかりながら、レッドソックスとヤンキースのライバルとしての競争と協調を一段と質の高いもの

にしている。メジャーのしたたかさと長期の構想をもったチーム運営です。日本のプロ野球は、アメリカメジャーリーグのマイナー化にならない様に大きな改革が必要です。

- ④スポーツ選手には幼少時からいろいろな種目を経験させる事が大切です。これからの若い人達は、ウィンタースポーツ、サマースポーツと複数のスポーツを経験し、さらにスポーツ以外の趣味を持つことも大切です。
- ⑤今後の私達の役割は、裾野を広げる事により世界に通用するアスリートを輩出する事です。また競技ばかりでなく、地域内のコミュニケーションの活性化、心身、体力、健康の増進につながります。二宮清純さんの講演最後に力説されていた事は、「親の背を見て子は育つ」といいますが「きざんとした良き背中を持つものが、良き指導者になる」ということです。私達の背中はどうでしょうか。興味深い講演に感銘を受け、参加者主催者共大変有意義な一時を過ごしました。



## 総合型地域スポーツクラブ視察研修

体育協会 副理事長 小山 博

「あらかわ生涯スポーツ2006」事業の一環として、平成19年2月4日総合型地域スポーツクラブ視察研修が、各競技団体代表者、PTA関係者、ボーイスカウト代表者、少年団体指導者、体育指導委員等35名の参加で行われました。

総合型地域スポーツクラブ創設は、誰もが、何時でも、気軽にスポーツを楽しむことができる「生涯スポーツ社会」実現のための施策として平成12年より始められたものです。全国で約2000のクラブが誕生しています。しかし、荒川区では総合型地域スポーツクラブへの理解度はまだまだ浅く、誰がどのようにして創るのか、運営方法は？資金は？…と疑問だらけです。

そこで先進地を訪ねて、実際に活動されている方々の話を伺い様子を見学し、理解を深め、実現へのステップにと実施されたものです。

訪ねた先は千葉県柏市の「高田倶楽部」と習志野市にある「習志野ベイサイドスポーツクラブ」です。高田倶楽部では北風の吹くなか、小学校の校庭で多くの小学生が元気よくサッカーの練習をし、隣のグラウンドではグラウンドゴルフを楽しむお年寄りの姿がありました。参加者のコミュニティの場でもあるクラブハウスも完備されています。

開設して3年目会員数も325名に増加していますが、財政面での自立や後継者育成がこれからの課題と、

大淵クラブマネージャーの説明がありました。

次の習志野ベイサイドスポーツクラブでは小澤事務局長から、行政の呼びかけで設立準備委員会がスタートし17回の話し合いを重ね、総合型地域スポーツクラブへの理解を深めながらスタートした経緯や、NPO法人取得について、指導者の確保、会員募集、習志野市との協力関係等の話がありました。

共に仕事や家庭を犠牲にしてクラブ育成に尽くされている熱意ある二人のお話に、深く感銘を受けました。帰路の車中、参加者から研修の感想等を聴き、最後に高田実行委員長から荒川区の総合型地域スポーツクラブ創設へ向けて、さらに研究を進め理解を深めて、実現のため努力していきまじょうと、締めくくりの挨拶があり有意義な視察研修が終了しました。



## スキー連盟都民大会入賞祝賀会

荒川区スキー連盟 川上 光一

去る3月4日(日)菅平高原スキー場において第60回東京都民大会冬季大会スキー競技会が行われました。荒川区としては男子8名、女子2名の代表選手に参加していただきました。東京都の各区市から選出された多数の優秀な代表選手が参加する中、荒川区代表選手の男子は参加選手8名のうち関選手、

塩嶋選手が各クラス2位、選手団長の新村選手、自らも5位でポイントを獲得し総合団体優勝、女子は2名のみでの参加でありながら山際選手がクラス優勝、北野選手がクラス8位でポイントを獲得、結果総合団体6位入賞となりました。このことは東京都民大会冬季大会スキー競技会による荒川区の団体成績としては初めての快挙であります。

なお、荒川区スキー連盟主催で祝賀会を6月8日(金)サンパール荒川にて開催いたしました。

祝賀会には、西川荒川区長をはじめ川寄荒川教育委員長、荒川区体育協会会長並びに役員の方々、その他多数のお客様をお迎えして盛大に行われました。

荒川区スキー連盟藤岡会長からの贈物を手に選手の皆様から連続の好成績を誓う言葉で祝賀会を納めることとなりました。



### 荒川区合気道連盟

荒川区合気道連盟は、昭和38年に発足以来、来年は、45周年を迎える都内でも屈指の歴史と伝統ある団体です。

現在、佐藤益弘会長のもと、400名を超える会員がおり、日夜稽古に励んでおります。

また今年も、佐藤会長ご夫妻が、傘寿と喜寿を迎えられ、3月25日に会員一同でお祝いの会を催すとともに、会長ご夫妻の長寿と連盟の益々の発展を祈念したところです。

連盟の近況としましては、4月26日に早稲田大学の依頼により、連盟傘下の荒川合気光道場(町屋四丁目)で、早大の留学生を対象にした合気道教室を開催しました。

これは、留学生に日本の伝統文化に触れてもらうことを目的に開催されたもので、アメリカやヨーロッパ、東南アジアの13名が参加しました。(写真)

初めは、正座することも大変な様子でしたが、佐藤会長や酒井師範らの熱心な指導により和やかながらも厳粛な稽古となりました。

当連盟では、今後もこうした国際交流を初め、区体協事業への積極的な参加等、区のスポーツ(武道)振興に寄与していきたいと考えております。



### 荒川区少林寺拳法連盟

少林寺拳法は、1947年(昭和22年)、開祖・宗道臣によって創始されました。

かつて中国で学んだ拳技をもとに、自らの理論による独自の拳法をのみ出した開祖は、それを「少林寺拳法」と名付け、「人づくり」のための「行」としたのです。

よって、少林寺拳法は、試合で勝ち負けを競うことが目的ではなく、自己を見つめ、相手とともに上達を図るという修煉過程を通じて、自己を確立し、自他共楽の精神を養うためのものなのです。

以来60年、開祖・宗道臣が説き続けた少林寺拳法の「行」としての本質は、宗由貴少林寺拳法連盟総裁とそれを支える150万拳士(世界32カ国、約2800支部)によって正しく受け継がれています。

少林寺拳法連盟荒川支部は、1972年(昭和47年)、南千住六丁目の地に、東京都で27番目の支部(全国で569番目)として誕生しました。

昭和59年には町屋三丁目に支部道場が完成し、毎週月曜日、金曜日、月1回土曜日、午後7時より10時30分まで定例練習を行っています。



### 荒川柔道会

荒川柔道会は、底辺拡大の為毎週土曜日夜7:00~9:00迄荒川総合スポーツセンター第二武道場に於いて柔道教室を開いています。

教室は荒川柔道会の先生方がボランティアで指導をしております。

生徒は子供中心ですが最近では社会人も増え現在50人近くの人達が稽古に励んでいます。指導の先生方も常に新しい柔道理論、指導方法を勉強し熱心に取り組み、練習生は練習成果を発揮、大会にも数多く出場し好成績を挙げています。

- ◎城北五区親善柔道大会 平成16・17年 二連覇
- ◎東京都24地区対抗柔道大会 第二部 優勝
- ◎東京都少年少女学年別柔道選手権大会 上位入賞
- ・マルちゃん杯関東少年柔道大会

尚、区民大会には練習生全員が出場できる様指導しています。これからもできるだけ多くの試合に出場し一人ひとりが前向きに挑戦して結果を残していきたいと思っております。

さらに教室では柔道の稽古のみならず、子供たちとの親睦と育成向上の一貫としてレクリエーション活動をしており、昨年はパーベキュー大会を行いました。

また東尾久にある菊地道場も唯一、町道場として柔道の発展の為頑張っています。

これからも荒川柔道会は、目標である「底辺拡大」を目指し全員で力を合わせながら、柔道を広めていきたいと思っております。



## 荒川の武道紹介パート1

### 荒川区剣道連盟

荒川区剣道連盟は平成13年に50周年を迎え、間もなく60周年に成ろうとしています。

昭和25年に本連盟が発足した当時は大戦後の占領政策によって武道は全面的に活動禁止となり学校教育の場からも完全に閉め出されました。このような戦後の荒廃した世相の中で伝統文化である剣道を愛する荒川区の憂国の剣士が一丸となって幾多の困難を克服して先駆的に剣道連盟を結成して下さいました。初代会長の中村徳太郎先生をはじめ、二代目会長小林正二先生、三代目会長野尻一男先生、四代目会長武藤昇二先生の方々です。

最近、少子高齢化が叫ばれる中、価値観の多様化等、社会構造の激変の背景を考えますとき、剣道の「礼に始まり礼に終わる」礼節の伝統文化こそ閉塞感の満ちる社会に対応できる一つの武道ではないかと確信しております。現在、五代目会長長岡由樹先生の下、此の事を心に会員一同頑張っているところです。

連盟傘下の稽古場では青少年少女を初め一般の方々の指導を実施しています。連盟本部の稽古場は毎週火曜日に荒川総合スポーツセンター三階第一武道場で午後7時ごろより実施しています。



# 生涯スポーツ2006

## ウォークラリー

参加人数・70組218名



## 楽々ニュースポーツ

参加人数・201名



# 第15回リバーサイドマラソン

11月19日 荒川河川敷 参加人数・956名 完走者880名

体育課 久保主事

当日は朝から雲行きが怪しく、スタート前から雨が降り出してしまいましたが、それでも当日の受付者数は956名と昨年の受付数を上回り、大会も無事

成功を収める事ができました。これも、寒空の下で白い息を吐きながら従事してくださったスタッフの皆様のお陰と感謝しております。



## 体協結団式



## 平成19年度総会

サンパール荒川 参加者72名



### 社会体育課異動者名簿

1 転出者		
前職	氏名	新職
体育管理係長	大島 敏雄	区民生活部地域振興課尾久区民事務所長
体育管理係	伊東 正行	福祉部保護課保護第一係
体育事業係	山岸 弘幸	総務企画部広報課報道映像係
2 転入者		
新職	氏名	前職
体育管理係長	古口 志志	福祉部保護課援護事務担当係長
体育事業係	磯谷 恵子	福祉部障害者福祉課相談支援係
体育事業係	吉田 直樹	新規採用
3 課内異動		
新職	氏名	前職
体育管理係	森永 照二	体育事業係